

		<p>12 月 22 日</p> <ul style="list-style-type: none"> • チェックシートに基づくデスクレビュー(インタビューによる確認、証拠書類の確認) • QA/QC の確認(教育・訓練記録、機器の点検・校正記録、内部監査記録、情報の管理状況、データの確認状況) • モニタリング実施状況の確認(モニタリングプロット訪問) • モニタリングデータの確認(調査野帳データ(胸高直径、樹高)、森林簿(林齢)、施業図(面積)) <p>12 月 23 日</p> <ul style="list-style-type: none"> • モニタリング実施状況の確認(モニタリングプロット訪問) • モニタリングデータの確認(調査野帳データ(胸高直径、樹高)、森林簿(林齢)、施業図(面積)) • 当日所見報告書の作成・一時的合意 <p>12 月 23 日</p> <ul style="list-style-type: none"> • モニタリング実施状況の確認(モニタリングプロット訪問) • モニタリングデータの確認(調査野帳データ(胸高直径、樹高)、森林簿(林齢)、施業図(面積)) 				
排出削減・ 吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012
	t-CO2	2,818	2,790	—	—	—
検証結果の要約		<p>本検証では、妥当性確認・検証ガイドライン(Ver.1.2)を検証基準として、佐川林業株式会社が実施する「SGH グループ高知・徳島山林長期経営プロジェクト」のモニタリング報告書がプロジェクト計画書(Ver.1.5)、モニタリング計画書(Ver.1.5)、モニタリング方法ガイドライン(森林管理プロジェクト用)(Ver.2.1)及び方法論 R002(Ver.3.0)に準拠しているかどうか、について確認した。</p> <p>検証の結果、モニタリング報告書(Ver.1.1)は、J-VER制度におけるプロジェクト計画書(Ver.1.5)等に準拠していることを確認した。また、重要性は、検出された誤りが全て修正されたことで、量的基準(吸収量の5%以内)を満たしていることを確認した。なお、2008年4月1日～2010年3月31日の2年間における本プロジェクトでの吸収量は5,612t-CO₂である。</p> <p>従って、本プロジェクトのモニタリング報告書(Ver.1.1)は無限定適正である。</p> <p>以上により、吸収量の認証をオフセット・クレジット(J-VER)認証運営委員会へ申請することを推奨する。</p>				

i 審査担当者、レビュー担当者、外部専門家を含み、それぞれの役割を記載すること。